

うんこ聖書物語

松 本 あずさ

奨励者紹介〔まつもと・あずさ〕

日本キリスト教団はりま平安教会牧師

洪水は四十日間地上を覆った。水は次第に増して箱舟を押し上げ、箱舟は大地を離れて浮かんた。水は勢力を増し、地の上に大いにみなぎり、箱舟は水の面を漂った。水はますます勢いを加えて地上にみなぎり、およそ天の下にある高い山はすべて覆われた。水は勢いを増して更にその上十五アンマに達し、山々を覆った。

地上で動いていた肉なるものはすべて、鳥も家畜も獣も地に群がり這うものも人も、ことごとく息絶えた。乾いた地のすべてのもののうち、その鼻に命の息と霊のあるものはことごとく死んだ。地の面にいた生き物はすべて、人をはじめ、家畜、這うもの、空の鳥に至るまでぬぐい去られた。彼らは大地からぬぐい去られ、ノアと、彼と共に箱舟にいたものだけが残った。水は百五十日の間、地上で勢いを失わなかった。

（創世記 7章 17—24 節）

大学の授業には慣れましたか。特に新入生の皆さんは、高校は50分授業でしたが大学では90分になって、また今はネット配信と対面の授業があって大変です。何だか気が散ってしまう、授業が難しくてまぶたが重くなった時、目が覚める方法を一つ紹介します。それは頭の中でうんこと呟くこと。うそだと思われるかもしれませんが。人は「うんこ」という言葉に反応します。2017年、『うんこ漢字ドリル』（文響社）なる漢字練習帳が登場しました。「日本一楽しい漢字ドリル」と話題になりました。漢字練習帳のすべての例文で「うんこ」という言葉が出てきて、子どもたちは夢中になりました。子どもはうんこが大好きです。うんこ、という言葉を目にするだけで顔が輝きます。小さな子どもだけではなく、大人の顔も輝きます。私の地元には「うんこミュージアム」なるテーマパークができました。うんこという言葉に反応し、面白いと無条件で感じる大人もいるのです。眠たくなってきた時、授業名の上に「うんこ」とつける想像をしてみてください。少し、楽しくなってきませんか。私は神学部に通っていました。うんこ神学部・・・うんこ聖書学、実際にそう呼ぶと怒られるかもしれないので、頭の中だけで想像する。一体どんな授業なんだろう、「うんこ」とこの授業がコラボレーションしたらどのようなことになるんだろうと想像すると、ウトウトしていた目がぱっと開きます。私は毎週日曜日、教会でメッセージを語ります。ウトウトされる方もいます。年に1回、礼拝で「うんこ」と言います。毎回言うと飽きられてしまうので、年1回だけ。うんこと言うと大人の顔が輝きます。

「うんことキリスト教をくっつける、そんなことをしてもいいの」と、思うかもしれませんが。眉をひそめる牧師先生もいるかもしれませんが、私は問題なしと思っています。「うんことキリスト教をくっつけよう」と考えるのは、世界であなただけでしょ」と思うかもしれませんが、実はもうすでに行われています。『こいぬのうんち』という絵本があります。クォン・ジョンセン（権正生）という人の作品です。神様の愛を、こいぬのうんちの視点で描いた大変素晴らしい絵本です。1969年、韓国の第1回キリスト教児童文学賞を受賞し、日本でも2000年に平凡社から出版されました。おすすめです、よければ読んでみてください。

今日は、聖書とうんこを結び付けて読んだらどのようなのか一緒に思いめぐらします。

今日読んだ聖書箇所は「ノアの箱舟」と呼ばれる聖書物語の一部分です。この世界も生き物も、神様が6日間働いてつくった、息を吹き込んで「すばらしい出来栄えだ、いいね」と言いながら創り上げた、神様自慢の自然、生き物、人間だった。でも、人間がたくさん増えると、人間同士で争ったり憎しみ合ったり、神様が予想しなかった嫌なことばかりするようになる。人間なんか作るんじゃなかった、神様は後悔した。もうリセットしちゃおうと思った。神様はノアの家族に語った。「もうすぐ大洪水が来る、でも、あなたがたは助かって欲しい。これから箱舟のデザインを言うから、そのとおりに造りなさい」。ノアは箱舟を作った。世界中の動物が一つの箱舟に乗った。そんなストーリーです。

箱舟の中

聖書を読んだことがなくても、四角い箱舟の中にたくさんの動物たちが乗っているデザインを見たことはあるかもしれません。私は動物が好きなので、子どもの頃、箱舟に乗りたかったです。

家の近所には巨大なペットショップがあって、そのお店の名前が「ノア」でした。犬や猫だけでなくウサギ、鳥、モモンガ、爬虫類などさまざまな種類の動物がいるらしい、行ってみたい、そして大人になったらペットショップ「ノア」で働きたいと思っていました。家族に行きたいとねだり、連れて行ってもらいました。店内に入った瞬間、動物が出す臭いがムツと迫ってきました。もちろんペットショップの中は定期的に掃除をして、風通しも良い環境のはず。でも生き物がいっぱいいると臭い。ペットショップ「ノア」で働くのはやめようと思いました。

聖書の光景を想像します。世界中に生息する動物が集まって狭い箱舟の中で過ごしていたら、室内の空気は、もうとんでもない臭いがこもっていたかもしれません。創世記6章に箱舟のデザインが書いてあります。この聖書の箇所を細かく再現した箱舟の模型がありますので、時間がある方は検索してみてください。トイレなし、換気用の窓なし、電気も通っていません。

なお、ノアの箱舟の話をする「肉食動物と草食動物が一緒にいたら食べられてしまうのでは」と聞かれます。大丈夫です。ノアの箱舟事件が起こった時、すべての動物、人間の食事は青草、あるいは木の実でした。肉を食べる生き物はいなかったのです。肉を食べなくても、牛や馬のうんこは臭いですから、箱舟は臭かったはずですよ。

創世記7章6節にはノアが600歳の時に洪水が地上に起こったとあります。終わったのはいつなのかと読み進めると8章13節に、ノアが601歳の時だとあります。1年近く箱舟で生活をしていたのです。絵や絵本では微笑ましく思えますが、実際は1年までも窓も開けられない、臭くて狭くてうんこまみれ。外は洪水。逃げる場所もない。不安な気持ちで体を寄せ合っていた、そんな光景を想像します。神様はなぜ愛する動物とノア家族をうんこまみれの箱舟に閉じ込めておいたのでしょうか。聖書の別の箇所でも、突然地面が割れて悪い人だけ落ちる話もあります。その方が簡単です。皆さんはどう思いますか。

箱舟生活が必要だった

私は1年間の共同生活が人間と動物には必要だったのだと思います。自分たちの仲間だけに利益のある世界ではない。気に食わない、嫌だなと思う奴もいる。でも自分と同じようにうんこをして、神様に守ら

れている。この世界は多種多様な生き物と暮らしていること、自分たちだけが主人公ではないこと。なんとか住み分けをして妥協して工夫して、時に喧嘩しながら生きていかなくてはいけない。それを皆が自覚するために1年間うんこまみれの生活が必要だった。

うんこは、神様の思いも変えたはずだと、私は思っています。1年後、箱舟から出てきた生き物たちが最初にしたことは、水浴びではありません。神様を礼拝することでした。神様が喜ぶ礼拝をしたから、神様の機嫌が直った、そう読めるような箇所ですが、私はここにもうんこを登場させたい。1年以上、換気できない、トイレもない箱舟にいた生き物たちです。皆うんこにまみれてフラフラだった。でも必死に神様を礼拝しようと準備し祈り始めた光景を見て神様は強く心を動かされます。もう二度と絶対に、洪水を起こして世界をリセットしようなんて考えたりしない。洪水は神様の罰だなんて絶対に言わせない。肉食も禁止していたけれど、肉を食べても良いことにしよう。完璧な人間だけが住む世界が理想だと思ったけど、もうそんな考えるのやめよう、と。面白いことに、聖書の神様は感情豊かです。他の神様に嫉妬したり、苦しんだり、喜んだり。でもどうにかして神様がこの世界、人間のことを大事に想っていると伝えたいと、必死に工夫している話がかかれています。ですから、捧げ物をする人間たちに満足する神様ではなく、神様の自信作である生き物たちが弱々しくボロボロになっている姿を見て、心を痛める、視点を変える、そんな神様であってほしい。

うんこの視点

今日はうんこ、うんこと言い続けました。なぜうんこにこだわるかというと、私自身うんこの視点によって励まされたからです。学校の礼拝の時間、君は愛されるために生まれた、あなたの存在は素晴らしいという言葉聞くことになります。神様を愛し、共に生きる隣人を大事にせよという教えの基本は、自分を大事にするように隣人を愛せ、です。自分を大事にすることが前提です。でも、私は自分のことが好きではなかった。他の人より優れたところが何もない、目立つ部分もなし。自分に価値があると思えないまま、たくさん人を愛しなさい、あなたには価値があると言われても何も響きませんでした。私を変えたのは『こいぬのうんち』という絵本でした。この絵本は、こいぬのうんちが主人公です。生まれて最初に自分に向けられた言葉は「きったない」。そうなんだ、自分は汚いんだ、価値がないんだと思い込んでいる。私と同じ、私の物語だと思いました。ぜひ読んでいただきたいのですが、こいぬのうんちは、うんちのままで自分は意味ある存在だと気づきます。うんちだから、この世界でできることがあると書かれています。

進化論の視点でノアの箱舟の話を読むこともできます。悪い遺伝子は自然淘汰された、悪い行いをしたんだから滅んで当然だという自己責任の視点で読むこともできます。でも、その視点だけで自分の世界を見ていたら、自分に価値がないと思っている人はますます生きることが苦しくなります。今は役に立つ人間だけれど、いつ役立たずになるかおびえながら生きることになります。そんなのつまらない、勿体ないです。だから、ぜひうんこの視点をもってください。

ノアの箱舟の中が、聖なる清潔な空間でなかったように、この世界も、汚いものが何もない、否定的な思いが一切ない世界ではありません。大嫌いな人もいる、意見が食い違う人もいる。けれども、自然淘汰や自己責任ではなく、相手も神様から愛されているよな、ご飯を食べてうんこをしていのちを終えていく、神様が愛をこめて造ったいのちだよなって、その視点から始めましょう。言い争いもあるけど、なんとか皆

で過ごしていける空間、共同体を作るため祈ったり、語り合ったり、相手のこと、自分のことを知って認め合おうとする。もしかしたら、思いがけないところに自分を発見するかもしれません。今日の祝福の言葉は、「キリストの風」集会という、セクシャルマイノリティ当事者のクリスチャンの集いで使っている祝福の祈りです。神様が私たちに情熱を注ぎ、祝福されていることを豊かなイメージで伝えています。祝福の祈りの時、ぜひその光景をイメージしながら「アーメン」、そのとおりになりますようにと一緒に祈ってください。私たちがそれぞれ生きる現場で、いきいきと命を燃やすことができますように。

愛の源である神さま。

さまざまな考え、背景をもつ人たちと出会える、この大学で学ぶことができ、感謝します。

それぞれの人が神様からいのちを与えられていること、一人ひとり違う個性があることを覚え過ごすことができますように。お互いの心の中にあるユニークな視点に耳を傾け共に聴き、分かち合い、学ぶことができますように。そのような仲間が与えられますように。

健康で清潔で、経済的に余裕のある人だけが認められる、あなたが生きるに足る存在だと証明せよと迫り続ける、そんな社会を求めるのではなく、

年老いても、病を得ても、できないことが多くても居場所がある、そんな社会を求めていくことができますように。神様の無条件の愛に気づくことができますように。アーメン

祝福の祈り〈キリストの風集会の祝福の祈り〉

今、キリストの光がわたしたちの中で新しくうまれた。

わたしたちは、その光をたずさえて出ていこう。

今、キリストのかおりが人々の間に新しく満ち溢れた。

わたしたちは、そのかおりをたずさえて出ていこう。

今、キリストの風が世界に新しい平和を告げた。

わたしたちは、その風をたずさえて出ていこう。

復活の主イエス・キリストが、わたしたちと共にありますように。

アーメン

〔参考文献〕

クオン・ジョンセン 『こいぬのうんち』 チョン・スングク絵 ピョン・キジャ訳 平凡社 2000年

祝福の祈り〈キリストの風集会の祝福の祈り〉<http://kinkaze.raindrop.jp/prayer> (2021年4月27日最終閲覧)

2021年4月28日 今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録